

地方独立行政法人大阪産業技術研究所

令和4事業年度の業務実績に関する評価結果の概要

大阪府商工労働部中小企業支援室ものづくり支援課

法人の毎事業年度の業務実績については、地方独立行政法人法に基づき、知事（設立団体の長）の評価を受けることとなり、令和5年8月3日開催の評価委員会の意見を踏まえ、大阪市長と協議の上、令和4事業年度の業務実績の評価を以下のとおり決定した。

全体評価「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

○大項目評価

以下の5つの大項目で、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

○評価コメント

法人において、多様化・高度化する企業の技術課題やニーズに対応するため、技術支援、支援研究及び人材の育成等に積極的に取り組んで企業の課題を解決するとともに、「NEDOMーンショット型研究開発事業」をはじめ、競争的研究費を積極的に獲得して研究開発に取り組んでいることを高く評価した。一方、企業への技術移転等を見据えて取り組む「知的財産の出願・秘密化件数」が目標値を大幅に下回った要因を引き続き分析し、必要な措置を講じるなど、中期目標期間における目標達成に向けて取組を進められたい。

引き続き、和泉及び森之宮センターの優れた技術力や強みを融合し、企業支援研究に取り組むとともに、顧客満足度の向上や新たなサービスの拡充、オープンイノベーションの推進による一気通貫の企業支援など、ものづくり中小企業への支援サービス向上に積極的に取り組まれることを期待する。

住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	多様な技術分野における技術支援	S	A	B	C	D	多様な企業ニーズに応える技術相談への対応、国際規格に対応した電波暗室等の活用や企業支援研究の推進により企業の課題解決に積極的に取り組み、企業の技術開発・製品化や困難な技術的課題を解決するなど、取組が計画どおり進捗していると認められた。
	研究開発の推進・産業人材の育成	S	A	B	C	D	基盤研究、発展研究、大学との共同研究等を実施して研究所の技術支援力の向上を図るとともに、「NEDOMーンショット型研究開発事業」など、競争的研究費を獲得して行う研究が計画を上回って進捗する一方、コロナ禍で活動が制限される中、企業が求める技術者育成等の実績が目標を下回るなど、取組がおおむね計画どおり進捗していると認められた。
	事業化までの一気通貫の企業支援	S	A	B	C	D	コロナ禍で活動が制限される中、府市、業界団体、大学、国研究開発機関等と連携した取組を推進し、「企業支援成果事例集」を発行するなど、研究所の利用拡大に向けた情報発信等が計画どおり進捗する一方、技術情報の発信及び知的財産の出願・秘密化の実績が目標を下回るなど、計画がやや遅れて進捗していると認められた。
業務運営の改善及び効率化	S	A	B	C	D	本部機能を充実するための法人経営本部の設置や理事長アドバイザー制度を導入して外部有識者等の知見の活用を進めるなど、取組が計画どおり進捗していると認められた。	
財務内容の改善、その他業務運営に関する重要事項	S	A	B	C	D	事業収入の確保、財務基盤の強化と予算の効率的執行を計画的に行うとともに、安全保障輸出管理規程の運用を検討するなど、取組が計画どおり進捗していると認められた。	

<評価区分>

S：特筆すべき進捗状況

A：計画どおり

B：おおむね計画どおり

C：やや遅れている

D：重大な改善事項あり